

令和4年度（2022年度） 自己評価結果公表シート

認定こども園
和泉チャイルド幼稚園

当園ではこの度、令和4年度（2022年度）の認定こども園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。学校評価とは、認定こども園の教育活動について、具体的な努力目標を明示し、計画的に点検・評価を行うことにより、教育活動の改善・充実を図っていくものです。この自己評価の結果を受け止め、今後の当園の成果や課題を明確にし、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

1. 頑張りのきく体力づくり
2. 思いやりの心の育み
3. 表現を楽しむ環境づくり
4. 食への関心と感謝の心の育み

II. 今年度の重点目標

子ども達に育みたい10の姿を、保護者はもとより、子どもたちにもわかりやすく伝えられるよう明確化し、教育方針、教育目標に基づいて保育内容や行動の見直しをすすめられるようにする。

III. 評価項目と令和4年度（2022年度）取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 教育課程・指導	(幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況) 環境を通して行う幼稚園教育の実施の状況	学年ごとやクラスごとの(たてわり・よこわり活動を見据えた)教育・保育の環境の整備や見直しをこども姿から捉え、行った。また、6学年の教育課程となる「全体の計画」作成の下地を手掛け、ホームページ公開を目指した。
2 教育課程・指導	(幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況) 遊びを通しての総合的な指導の状況	期ごとの子どもたちの興味・関心を対話や関わりから引き出し、それぞれの特性に応じた集団の活動の中からひとりひとりの子どもたちの姿を見取った。保育教諭同士のこども姿の情報交換を心がけ、保護者への公開につないだ。
3 保育環境の充実	幼児の発達段階に即した遊具や設備、絵本などのさらなる充実の検討	学年の育ちに応じた遊具・教材の種類や素材を配置とともに、常にこどもたちの興味・関心を見取りながら設備した。園庭においては、昨年度設置した築山に植樹した季節ごとの樹木・草木に関心をもてるあそびを工夫し、自然に接したあそび(学び)の充実とした。
4 安全管理	安全点検や教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取組み・共有部分の整理整頓・清掃の徹底	市内消防署・大阪府警・和泉警察の協力のもと平時または災害時に応じた設備の安全確認の実施、防犯・防災に関する研修・見学・訓練の実施。共有部分の整理・清掃の充実を図った。また、園近隣の避難経路の確認を毎月実施した。
5 保健管理	日々の健康観察や疾病予防のための取組み、健康診断の実施の状況	常駐の看護師主導による水質管理や食物アレルギー児の給食提供の仕方の徹底、AED使用の研修。内科・歯科・身長・体重・視力・聴力検診の実施。 昨年度に引き続いてコロナウイルス感染予防のための消毒・換気・手洗い・手指消毒・健康管理表の実施。それに基づく衛生担当の組織づくりを行なった。
6 教職員間の連携の強化	終礼での報告だけでなく、各学年でのミーティングや他のクラスの様子を知る機会の充実	学年ミーティング・学年リーダーミーティング・各担当ミーティング・日々のこども会議の折々に、こどもの育ち・学びのすがたについて情報交換を充実させた。 学年内だけでなく、たての学年同士のこどもについてや、保護者対応や特に関わりが必要な子どもについての情報交換も心掛けた。各役割担当ごとの目指す業務と連携の充実を心掛けた。

7	配慮を必要とする子どもへの対応	配慮を必要とする子どもへの援助のあり方等について、専門家(臨床心理士)との意見交換の機会を設け、教職員の理解・認識を深める	配慮が必要な子どもへの対応の要点を毎月のキンダーカウンセラー(臨床心理士)の来園時や和泉市教育委員会指導員による巡回指導などから、教職員間の相互理解による子どもの理解・認識を深め保育につないでいる。また、子育て支援とともに保護者との連携を大切にし、園の指導計画の充実を図った。
8	保護者・地域住民との連携	園の役割や機能を達成するために必要となる地域の様々な機関や団体と適切に連携している	引き続きコロナ禍の為、地域の行事がほとんどない年度であった。近隣中学の地域交流の機会には、未就園児親子や一部の保育教諭が参加した。また、小中一貫校を目指すまちづくり計画に、地域の子育て支援の中心的役割のある園として積極的に参画している。
9	子育て支援	地域の子育てセンターとしての機能を発揮している	園内に子育て相談員が常駐し、また大阪府推薦の臨床心理士によるキンダーカウンセリングの設置について地域へ広く発信している。園庭開放や未就園児親子教室などを通して地域の家庭(親子)の受け入れをし、保護者同士を繋ぎ、子育ての支援を行う。
10	情報発信の充実	保護者や地域の方々に対して、園行事や保育活動、給食の内容などを知って頂くための、園のホームページやブログの活用	地域や町会の掲示板へ園行事の内容や協力御礼のご挨拶を掲示すると同時に、園のブログやホームページ、インスタグラムには日々の教育・保育・食育活動などについて、地域の方や未就園児保護者に向けた情報発信を行っている。また、「赤ちゃんの駅」としても地域の開いた施設としている。
11	保育計画の作成と評価の充実	各学年の年間計画の見直しや整備を行い、月案、週案の立案に反映させているか	「10の姿」をもとに学年ごとの育てたいこども像を設け、主体性のある子どもに育つための学年ごとの年間計画の見直しを行い、具体的な整備を年度初めより学年ミーティング、学年リーダーミーティング、園長・副園長・主任ミーティングを充実させ、昨年度の資料も参考にし、継続して行っている。また、月案週案、日案に反映させ、こどもの姿に基づいた活動内容の見直しと充実を都度図る。

IV. 今後の課題

1	教育カリキュラムの見直し・充実	新入園児の様子やクラス替え後の子どもたちの様子、支援や配慮が必要なこどもの様子、育ちの姿を見据えた上で、全体のカリキュラムの細かい変更の見直しを行う。同時に「家庭のようす」を大切に見守り、家庭と園が連携してこどもの育ち、学びを育めるように尽力した。また、育てたいこどもの姿を見据え、子どもにとっての興味・関心に沿ったカリキュラムをこどもの成長に合わせて盛り込むなどの工夫を行いたい。「全体の計画」作成を完成させ、一般開示をし、教育内容の充実にも努めたい。
2	行事等の評価・反省活動の充実	行事や毎月の災害時防災訓練・交通ルールを知る園外活動毎の振り返りを、担当者を中心にねらいに合った活動であったかを都度行う。そこで、反省点を明確にし、次回に向けた活動を具体的にを行い、より充実させていく。また、こどもの姿に応じた行事のあり方を検討していく。続くコロナ禍により、行事の内容やねらいについて本来の大切なことはなにかをより明白にしていきたい。実際に園生活の時間の中で起こった地震などの時の実際の動きの中で教訓を得ることもしていきたい。
3	保育環境の充実	子どもの育ち、学びに応じた教育・保育環境の充実の検証は、学年を通して行なうことを大切にしたい。またこどもの特性に合わせた工夫を家庭との連携において行なう。子どもの生活を大切にしたい視点で捉えたい。安全面についてもより充実していく。尚、当年度は指導計画初期の見直しの段階とともに、3歳児の保育室の改修を行った。よって、教育内容の充実の為の保育環境づくりへの更なる取り組みを目指したい。
4	安全管理体制の強化	園舎施設全体の各箇所における安全点検を決められた担当者を中心に定期的に行う。遊具や用品・用具についても同様に、また、水質検査の徹底も努めたい。幼児の教室の柵など、今のこどもの育ちに合った設備により改めていきたい。
5	防災管理体制の強化	月1～2回の災害時避難訓練のねらいの徹底と振り返り、及び、次回に向けた課題の解消をその都度行い改善しながら進めている。非常時持ち出し袋や備蓄用品の月1回の定期点検の徹底を行う。定期的な消防署立ち入り検査の実施と見直しの徹底を行う。天候に応じた避難訓練実施内容の見直し・充実を図りたい。
6	教職員の資質向上	大阪府及び和泉市主催の研修への参画、研修後の園全体での振り返り研修とともに、研修で得たことの内容を具体的な指導計画の作成に役立てたい。同時に、園内研修として、立案や教育・保育の実施後の振り返りを行い、実践につないでいく。ファシリテーション・若手育成の充実を図り、ECEQ公開保育の研修及び他園見学なども有効な学びとしたい。その上で処遇改善の継続に繋がる研修の充実を確立していきたい。
7	保護者への情報発信の充実	園ホームページ、ブログ、インスタグラム、クラスだより、園だより等で集団の中でのこどもの育ち、学びの姿の情報発信を行う。また、特別な対応が必要な場合には、積極的な保護者面談等を通じて家庭との連携を円滑に行い、和泉市との連携も行なうよう工夫する。日々の保護者からの園児出欠の状況把握に対する応答や、常時の通園バス発着のお知らせ、また緊急時用のメール配信システム(「れんらくアプリ」)を活用している。コロナ禍における益々の活用の充実を図るとともに、特に送迎時の保護者対応や家庭連絡の丁寧さを意識して取り組んでいきたい。